

第3回 山口県 新たな時代の人づくり会議 議事録

日時：2020年9月4日（金）13:30～15:00

場所：県庁共用第一会議室

出席者（構成員）：村岡嗣政知事、楠正夫委員、吉村猛委員、岡正朗委員、

加登田恵子委員、三宅紹宣委員、原田尚委員、浅原司委員

出席者（事務局）：総合企画部長（司会）、総合企画部次長、総合企画部審議監

政策企画課長、教育政策課長

<会議の概要>

【村岡知事】

皆さん、こんにちは。

本日はお忙しい中、お集まりいただきまして誠にありがとうございます。

「新たな時代の人づくり推進方針」の策定に向けましては、これまで2回にわたり、皆様から、これからの時代を担う人材に必要とされる資質と能力、学校等での学びのあり方などについて、様々な御意見を伺い、素案の策定を進めてまいりました。

また、関係者からいただいた御意見等も踏まえて、人づくりの基礎を培う幼児期の教育・保育や、特別な支援を必要とする児童生徒等を含め、意欲ある誰にもあまねくチャレンジの機会を提供すること、あるいは、私立学校との連携などの視点も、素案に追加させていただきました。

さらに、現在は、昨年まで予想だにしていなかった新型コロナウイルスの感染が拡大し、我々の生活や社会経済活動に甚大な影響を及ぼしています。これからの時代は、このコロナの存在を前提に、従来の習慣や価値観を見直し、「新たな日常」を創り上げていかなければなりません。

中でも教育におけるICT化は、コロナの時代に学びを保障する効果的な手法となるだけでなく、新たな学びのスタイルを生み出す可能性があり、私は、今後のデジタルトランスフォーメーションの加速化を見据え、こうした取組をしっかりと進めていかなければならないと考えています。

私としては、将来の予測が困難な時代だからこそ、本県の若者が、幼い頃から高い「志」と「行動力」をもって、地域や社会の困難な課題に挑戦し、それを乗り越える力を身に付け、山口県の未来を切り拓いていって欲しい、そういった思いを実現できる推進方針を策定し、皆様と協力しながら取組を進めてまいりたいと考えています。

本日は、これまでの議論等を踏まえ、人づくりの推進方針の素案を改めてお諮りさせていただきますので、この素案をベースに、皆様から、推進方針の方向性や今後取り組んでいく内容などについて、御意見をいただければと存じます。

限られた時間ではありますが、忌憚のない御意見を賜りますよう、どうぞよろしく願いいたします。

【平屋部長（事務局）】

それでは、ここからの進行につきましては本会議の設置要綱に基づき、会議の議長でありませ、会長によりしくお願いいたします。

【村岡知事】

それでは議事に入らせていただきます。

本日は、まず、「新たな時代の人づくり推進方針」の素案について事務局から説明をいたします。その後、「新たな時代の人づくり推進方針」の素案をベースに、今後の取組の方向性や取組内容についてのお考え、盛り込むべき事項について御意見を賜りたいと思います。それでは事務局から資料について説明をしてください。

【池田審議監（事務局）】

それでは事務局から「新たな時代の人づくり推進方針」の素案について説明させていただきます。

「新たな時代の人づくり推進方針」の素案につきましては、昨年度、委員の皆様にもお示しをさせていただいたところですが、県議会などでの議論を踏まえまして、人づくりの対象や分野につきまして、より幅広くする見直しを行い、改めてとりまとめを行いましたので、その内容について御説明させていただきます。

まず、資料1をご覧ください。

人づくりを進めていくにあたり、この度、幼児教育・保育、障害児教育、私立学校との連携、それから家庭環境に困難を有する幼児児童生徒への支援という観点を新たに検討項目に加えまして、専門的な見地からの御意見等も盛り込むため、関係分野における有識者6名の方からなる「教育分野特別専門委員」を設置し、個別に御意見をお伺いしました。

各委員の御発言の要旨につきましては、お手元にお配りしております資料2のとおりです。

次に、素案の概要につきまして、資料3-1により御説明いたします。

素案の全体構成につきましては、これまでお示ししていたものに、この度の検討項目等を加える形としております。

1の「策定趣旨」でございますが、前回と同じく将来の予測が困難な中であっても、課題に挑戦し乗り越える力を備えることができるよう、様々な主体が連携・協働しながら、人づくりに取り組むとしています。

2の「対象期間」につきましてはこれまで3年間としておりましたが、人づくりは長期的な観点から取り組んでいく必要があるとの御意見を踏まえ、令和3年度から当分の間としております。

3の「新たな時代を担う人材像」につきましては、前回と同じく、ふるさと山口に誇りと愛着を有し、高い志と行動力をもって、課題を自ら発見、他者と協働しながら解決し、新たな価値を創造できる人材としています。

4の「人づくり推進の基本姿勢」につきましては、新たに盛り込んだ項目でございまして、人づくりの推進にあたり、一人ひとりの能力や可能性を伸ばすとともに、意欲ある全ての子ども・若者に新たな学びと成長のチャンスを提供する。そして、公立・私立学校や関係施設等と一体的に取り組み、様々な主体が連携してチャレンジを応援する、としています。

5の「人づくりの現状と課題」につきましては、子ども・若者の減少や児童生徒の学力等10項目について整理しています。

6の「新たな時代に向けた人づくりの推進」についてです。

これ以降が人づくりを推進するにあたっての方針の部分でございまして、初めに基本的な考え方を基本方針としてお示ししています。

1点目が、年齢や性別、障害の有無、経済状況等にかかわらず、学びへの意欲を有する子ども・若者に、あまねく必要な教育を提供し、各々の志と行動力を育み、行動していけるよう、公立・私立や施設の種別等による区別なく、皆が一体となって、新たな人づくりを推進することとしています。

2点目が、これから御説明いたします6項目の取組の視点に基づきまして、人づくり全体を体系的かつ中長期的な観点から俯瞰しながら諸施策を構築し、様々な主体の連携の下、効果的かつ計画的に実施していくこととしています。

2ページの「取組の視点」につきましては、学校内外における教育活動や、これを支える基盤を整備する際の視点という形で整理させていただいております。

この度、(1)「生涯にわたる人づくりの基礎培う」と、3ページの(4)「誰にも等しくチャレンジの機会を創る」、この2項目を追加しております。

(1)「生涯にわたる人づくりの基礎を培う」では、生きる力、学ぶ力を培うための土台、人格形成の基礎を培う重要なものとして、幼児教育・保育の充実を図ることとし、非認知能力や自己肯定感を育み、生命や自然を大切に作る心や他者への思いやり、感性等を育む取組等が重要としています。

そして、培われた力の基礎が学校教育に繋がり、志を実現することができるよう、幼保小の連携など、学びの接続と一貫した人づくりを推進することとしています。

(2)「ふるさと山口への誇りと愛着を高める」では、先人たちの志と行動力に学ぶことなど、教育の充実を図るとともに、本県で活躍する大人や先輩から刺激を受け、憧れの連鎖の創出などについて記載しています。

(3)「新たな価値を創造する力を育む」につきましては、

①「地域や社会が抱える課題を発見し、他者と協働して解決する力の育成」では、VUCAの時代を迎え、人生の縮図体験となるようなPBLの推進やノウハウの共有が重要であることなどを記載しています。

②「自らキャリアを構築する力の育成」では、三宅委員から御提言のありました新たな価値を創造するためのアイデアを生み出す環境づくりが必要としています。

③「グローバルな視野の育成」では、ICTを活用した世界との交流や世界との結びつきを

実感できる体験活動の推進について記載しています。

④「A I等新しい技術を活用する力の育成」では、岡委員、吉村委員から御提言がありました、山口大学と小中高等学校が連携した知財教育の推進やデジタルを使いこなす人材の育成等について記載させていただいております。

続きまして3ページ目になりますが、学びへの意欲を持つ子ども・若者が障害の有無や家庭環境等にかかわらず、あまねくその可能性を伸ばし、夢や希望を実現することができるよう、

(4)「誰にも等しくチャレンジの機会を創る」の項目を新たに設けています。

次に、

(5)「地域や時代のニーズに対応し、チャレンジのための環境を整える」についてです。

①「児童生徒の可能性を伸ばし、「志」を叶える新たな学びの場の創造」では、公立学校と私立学校の連携を図りながら、特色ある教育活動を進めるとともに、県内で切磋琢磨する機会を確保することや、例えば若手医師やデジタル人材など、本県の政策課題への対応に必要な人材を確保するため、子どもたちの志への働きかけや育成環境の整備が重要としています。

②「教育のICT化の推進」につきましては、これまでも記載しておりましたが、新型コロナウイルス感染拡大にも対応するための遠隔教育などの取組を前に進めていかなければなりません。今回、二つ目の「・」になりますが、臨時休校等の緊急時においても、オンライン学習等により学びを保障できる環境の整備を推進していくことを新たに記載しています。

③「社会の変化に対応した専門高校の充実」では、技術の進展など、時代の変化に対応した知識・技術習得のため、実習施設・設備等の整備の推進を新たに盛り込んでいます。

④になりますが、今年4月に全ての公立学校に導入が完了した「コミュニティスクールの深化」では、保護者や地域住民が楽しいと感じて取り組む仕組みづくりが重要としています。

続きまして4ページ目の、

⑤「県内高等教育機関における機能分担と連携の促進」です。

これにつきましては、岡委員の御提言を踏まえ、県内大学等と産学公との連携について記載しています。また、加登田委員から御発言がありました県立大学のあり方の検討についても記載をさせていただいています。

こうした視点に基づき、取組を進めていくために必要となる教員の養成や体制整備を行うため、

(6)「新たな人づくりの推進体制を築く」を掲げています。

幼児教育・保育の充実を図るためには、幼稚園教諭・保育士等の役割が極めて大きいことから、

①「幼稚園教諭・保育士等の資質能力の向上、確保・育成」を進めるための研修の充実や職場環境の整備、幼児教育に関する調査研究や研修等を担うセンター的機能の構築について検討することとしています。また、県内大学等での人材の育成と県内定着を促進することとしています。

②「教職員の資質能力の向上」については、浅原委員からもその重要性について御提言があ

り、また楠委員からは良き指導者・リーダーの育成が必要との御提言をいただき、素案本体に記載させていただいております。

③「新たな学びを先導する体制整備」では、今年度設置しました「やまぐち教育先導研究室（YELL）」を中心に、ICTを積極的に活用し、新たな学びの視点を取り入れた教育プログラムの研究開発を推進するとともに、本県ならではの教育のあり方について研究し、実践に繋げることが重要としています。

④「推進方針に基づく取組の推進と検証」では、取組の推進にあたり、公立・私立学校や関係施設等との十分な連携が重要としています。そして、人づくりの方向性や課題認識を共有し、一体となって取り組むため、全県的な推進組織の設置の検討や、原田委員からの御提言も踏まえ、取組の定期的な検証・見直しを行い、総合的な進行管理を実施することとしています。

委員の皆様からいただきました御提言等につきましては、お手元の資料3-2、素案本体にも盛り込まさせていただいておりますので、ご覧いただきたいと思います。

最後に、資料4をご覧ください。

策定スケジュールにつきましては、来週行います総合教育会議を経まして、9月県議会で御説明することとしています。

その後、パブリックコメントを行いまして、来年の2月に第4回の人づくり会議を開催し、総合教育会議を経た後に、2月県議会にお示しし、今年度末に推進方針を策定、取組を推進していきたいと考えています。説明は以上でございます。

【村岡知事】

ただいま、事務局から説明をさせていただきました。

それでは、皆様方から素案をベースに今後の取組の方向性や取組内容についてのお考えや、盛り込むべき事項について御意見をいただければと思います。

お1人5分を目安にお願いをいたしまして、一巡した後に改めてまた御意見を伺いたいと思います。

席順に従いまして、経済界の楠委員からスタートさせていただきまして、吉村委員、岡委員、加登田委員、三宅委員、原田委員、そして浅原教育長の順番でお願いをしたいと思います。それでは、最初に楠委員からお願いします。

【楠委員】

この素案はよくまとめられておられると思いますし、意見が反映したものだと思っております。

今、企業の立場で求められているのは、やはり専門的知識技能、それから総合的知識技能。これはいつの時代も一緒ですが、特に最近はこういった側面が際立っているのではないかと思います。その理由は、イノベーション革命の中で、ステイブ・ジョブズが言っていますが、イノベーションにはリベラルアーツがいるということで、総合的把握・知識、ただ総合的知識があっただけでは何も解決ソリューションを深掘できませんので、当然、専

門的知識の裏づけの中で必要ということです。専門的知識だけでは動かないということです。総合的把握・知識が必要なのは、そこに新しい知の種が生まれるから、総合的知識が要するという位置付けだと思っております。

まさに今、起こっておりますDX革命についても、この専門的知識と総合的知識が必要なのではないかと思いますので、そういったことをきっちりとやっていく必要があります。日本にも昔は、空海が唱えた綜芸種智院大学、儒教の六芸といったリベラルアーツがあったと思います。日本にもあったことをもっときちんと、そういった教養というか総合的知識を、山口大学や県立大学の中で、やっぱりリベラルアーツをカリキュラムに取り入れていって欲しいというのが私自身の思いです。海外は、リベラルアーツをやってから専門的知識に入っていくということのようですので、日本も昔はありましたから、それに負けないようにできたらと思っております。

もうひとつは歴史的把握です。歴史的把握というのは教育の中でもっと必要ではないかと感じております。日本は、私が知っている限りは、近世くらいまでの歴史はやるのですが、近世から戦前・戦後あたりが抜けているような気がしますので、しっかりとした当時の事実関係、特に対外的な歴史のところをしっかりとやっていく必要があると思っております。企業としても、このあたりの事実を知った上で、経済取引といったものを行っていく必要があると思っております。日本のセールスマンが自信をもって諸外国にあたるというのは、やはり歴史を知る者は物に動じないという言葉もありますので、そのあたりをしっかりと教えていく必要があると思っております。

それから、世界はひとつで回っております。地球はひとつで回っております。この素案の中に国語と算数のことはありましたが、英語の県内の評価は、改めてどうなっているかなと思いました。

また、中高の代で他県に勉学のために流出する傾向もあるようですから、やはり県立では難しいのかもしれませんが、私立で尖った学校というのができたら、非常に全国的にも有名になってくるし良いと思っております。

また、日本から世界に出て行った人は、やはり愛する人、ふるさとを捨てて行くわけですから、いずれ大きな人になってふるさとに貢献してくれるという思いで、県内から出ていく人材かもしれませんけれども、そういった人たちも生み出さずふるさととして頑張っていくようなことになれば良いのではないかと思います。以上でございます。

【村岡知事】

ありがとうございました。専門的知識だけではなくてリベラルアーツの重要性ですとか、歴史的把握の重要性、大変、この今の時代において必要なことだと受けとめました。

また、県内での教育をそうした観点で充実をしていくことが重要だと改めて認識をさせていただきました。ありがとうございました。

続きまして吉村委員。

【吉村委員】

この素案自体は非常に素晴らしい、良い内容になりまして、ほとんど何を申し上げることもないぐらいよくまとめられたところであると思います。

特に人材像につきましては、まさに書かれている通りで、特に、今の企業環境、経済環境を見る上で、やはり地域や社会の課題を自ら発見するということが非常に重要であると、課題を解決するという力よりも課題を発見する力の方が非常に問われています。どこに、いったいこの本質的な問題があるのかを見極められる力というのが非常に重要であると思います。そして、他者と協働しながら解決するとありますが、今多くの企業はほとんど単独、一企業で物事を解決ということがあまりできなくなり、ほとんどオープンイノベーション、他社との連携の中で解決し、新たな価値を創造するという意味においては、構想力といえますか、そういったものが非常に必要になってきているということでもあります。

ですから、まさにこの人材像は将来の経済活動においても、経済価値や社会価値をあげる上においても非常に的を射た人材像だと拝察をさせていただいております。まさにこれを達成できれば、山口県は素晴らしい人材をどんどん生み出していける県になれるのではないかとと思うところですが、その中で、私からは4点ほどちょっと申し上げさせていただきたいと思います。

1点目は、AI等新しい技術を活用する力の育成でございます。

特に、コロナ禍におきまして、楠委員のお話しの中にもありましたが、デジタルトランスフォーメーションについては、非常に加速度的にその必要性が増しているところがございます。今、DXをやらない企業というのはもうほとんど皆無だと思えます。ただその中で、やはり中堅・中小企業、山口を支える多くの企業の中で、このDXをより加速度的にやっていくということが、経済界においては非常に重要な問題になってきていると思います。

その中で、何が不足しているかという点でデジタル人材でございます。デジタルのことが分かる人間、例えばテレワークひとつにしても、それを淡々とやっていけるような人材、そういった者が非常に不足しているのは間違いありません。そういった意味でデジタル人材の育成について、まず力を入れていただくというのが必要ではないかと思っております。

2点目は、教育のICT化の推進でございます。

デジタル人材の育成につきましては、そもそも教育自体のICT化を進めていくということが不可欠であるのではないかと思っております。

昨今、コロナ禍で学校が休校となるケースも多くある中で、学びを止めないという観点からも、ICT化をされた教育環境の整備というのは非常に重要であると拝察をさせていただいているところがございます。

ひとつの考え方といたしましては、記載にもありますが、例えば生徒1人1台のタブレットを配布するというようなこと、ひいては、例えば教科書はもう紙ではなく、このタブレットの中に落とし込んでも良いと思うぐらいです。そういった新しいテクノロジーを活用するということが、またこれから5G、クラウドといった動画あるいはデータの大量保有といったものが可能になりますので、データに基づく教育だとか、動画でどんどん教育を展開していくというようなことができるようになるのではないかと思います。

そういったテクノロジーを活用した教育現場の大きな革新みたいなのが、将来のDX化、あるいはそういったものの人材の育成に資するのではないかと考えております。

Edtech と言われているものを、是非、どんどん推し進めていただきたいと思います。

3点目は、社会の変化に対応した専門学校の充実でございます。

社会の変化に応じた専門学校につきましては、産学連携による実践的教育プログラムの開発と実施が非常に重要ではないかと思っております。

まさに、実践的であるかどうかというのが非常に、我々にとっては大事な話になっております。その設備等の整備にあたりましては、例えば、産業界からの投資をそのまま求められても良いと思いますし、その中で輩出された人材を投資した企業に就職していただける、そういった人材の地域循環を構築していただければ良いのではないかと考えているところです。

4点目は、これは素案の中に記載されていないのですが、昨今、特に金融界に身を置く者として思いますのは、やはり日本においては、欧米の教育に比べ、金融のリテラシーに関する教育が少し若い頃から劣っている、劣っているというのはちょっと表現が悪いですが、少ないのではないかと考えております。

人生100年時代を鑑みる場合、新しく経済や社会の中で構想力を発揮していくためには、やはりこの金融リテラシー、あるいはファイナンスの力、金融の力というものを早めに理解をしていただく機会、学ぶ機会というものを設置していただくようなことも、あわせて考えていただくということが重要ではないかと思っております。以上です。

【村岡知事】

ありがとうございました。4点、いずれも重要な御意見だと思えました。

お話があった中でひとつだけ補足させていただきますと、1人1台のタブレットですが、これは、今年度当初の段階では、予算の問題もあって、複数年、6～7年くらいかけて県内の県立高校に導入していこうとしていたのですが、コロナでかなり休校もあり、次にまた休校があったときに、学校と家庭を結びつけて遠隔教育もできるようにしておかないといけないですとか、色々と遅れを取り戻すためにも、民間のアプリも入れて教育に使っていこうということも考えて、1人1台については今年度中に整備するよういたしました。予算の可決をいただいて、もう既に取組を進めているところでありますので、整備を今回行って、これからは教育の中身を充実して、このICTの1人1台を、是非、フルに活用してこれからの教育に活かしていきたいと、そのように思っております。ありがとうございました。

それでは、続きまして、岡委員。

【岡委員】

大学の立場で少し意見を述べさせていただきます。

第四次産業革命・Society5.0におきまして、新たな知識がAI技術によってハイスピードに自走化されると、そういう時代を迎え、社会構造も急速に変わっていくという状況であると思います。また、その方向性っていうのはなかなか予測が困難であり、若者にとって、先が見えない時代というふうに映っているようです。すなわち、未来への希望を見出せない若者が少なからずいるということは我が国にとって大変大きな問題だと思えます。

すぐれた人材というものを考えてみますと、専門知識と人間力が相まって形成されたものであり、少なくとも、どの時代においても望まれる人間力というのはそう変わりはないのか

など思っております。

OECDでは「学びの羅針盤」を提示して、知識と技術、それから考え方や価値観、そういうことを全て統合して、そして社会の役に立つ、その先にはやはり社会の福利といえますか社会全体の幸せを考えると、こういうような教育をする必要があるだろうと述べているわけですが、これは我が国における小中高大、全ての教育に通じると、私は時々、講評するときに使わせていただいております。

我が国におきましては、先ほど楠委員からリベラルアーツの話が出ましたけれども、最近では文理融合のSTEAM教育という、サイエンスとテクノロジーとエンジニアリングとアートとマセマティックス教育、前はアートがなかったのでSTEM教育と言っていましたが、最近ではSTEAM教育になりました。アート自体はある意味、哲学や芸術とか、様々なことを一緒に入れる、すなわち、理系だけではなく、文系の能力というか、そういう知識も必要だということで、私としては、豊かな感性や他を慮る精神を背景にデータサイエンスの知識を基盤とした様々な専門人材を育成するという、こういうことがSTEAM教育ではないかと理解しております。

本日、資料の3-2、素案の16ページには、そういうこともあって県内高等教育における機能分担と連携の推進が述べてあります。

各大学が特徴ある教育や研究を大学間連携することで、若者にとってSTEAM教育を含めた魅力あるカリキュラムを提供できるのではないかと思っております。

今後、データサイエンス教育、STEAM教育、語学教育、医療関係の教育、教員養成、それからSDGs、こういった可能と思われる様々な大学間の連携分野がありますので、大学リーグやまぐちの中で連携の議論を進めるとともに、今話題となっております大学等連携推進法人の設立を視野に入れて議論する必要があるのではないかと考えています。

それから、山口県に若者を残すためには、県内の大学を含めた高等教育機関、大学を中心として、地元企業への就職が増えないといけないわけであります。多くの県内大学では県外出身の学生比率が高く、山口大学におきましては75%が県外という状況ですので、彼ら県外の学生にも、山口県に就職してもらう対策が必要だと思えます。

そのためには、COCプラスをやってきまして、これは県内県外出身にかかわらず、産学官連携により、山口県を知って、山口県を好きになって、山口県で働くと、良い仕組みを形成したと私は思っており、今後もこの仕組みを利用して継続することが、とても良い方法じゃないかと思っております。

また、山口県の地域課題の中に、若年女性の県外流出が著しいということが以前から言われており、調査をしたところ、この原因のひとつに、山口県の地元企業は性別役割分業意識が全国に比べて非常に高いというのがあります。すなわち、男性はこういう仕事だと、女性はこういう仕事だというふうに思っている企業が非常に多く、この意識を払拭して、女性の活躍を実現するということが非常に重要で、ひいては、女性が県内に留まるという非常に良い循環を生むのではないかと考えております。

それから、資料3-2の12ページにありますように、大学としての社会ニーズにこたえることが非常に重要であり、そのひとつとして、社会人教育は極めて重要だと捉えております。山口大学は山口県の支援を受け、9月より社会人向けにデータサイエンス講座をオンライ

ンで開講いたします。データサイエンスリテラシーコースと、マスター講座の二つをスタートしますが、1週間以内に両コースとも定員に達したということで、非常に需要が高いということをお私達も改めて認識しております。

今回の新たな時代に向けた人づくりの推進における基本方針および取組の視点については、非常によく練られていると私も思います。

今後ウィズコロナ、アフターコロナにおきまして、教育のICT化の推進でも取り上げておりましたけれども、対面授業と遠隔授業によるハイブリッド授業が実施されます。この中で、それぞれ小中高大で課題や利点がありますが、私どもが実施したアンケート調査等の結果から、やはり対面教育の重要性をひしひしと感じているところです。

こういったところを共有しながら、山口県のしっかりした教育体制をつくることも非常に重要だと感じております。以上でございます。

【村岡知事】

ありがとうございました。コロナの対応もとても重要な課題だと思いますし、お話がありましたSTEAM教育などもとても重要な視点だと思います。

COCプラスや大学リーグの関係では、大変、岡学長にお世話になっておりますけれども、大学間の連携や企業との繋ぎの部分はとても重要だと思いますので、引き続き連携しながら取組をお願いしたいと思います。ありがとうございました。

続きまして加登田委員。

【加登田委員】

今回の素案を拝見いたしまして、担当者の方から特に厚い方をじっくり読んでくださいというお話を受けたのですが、その熱意が伝わるような、よく書き込んであると思えました。まず表題ですが、新たな時代の人づくりということで、新たな時代の特性を聞くとちょっとおどろおどろしいのですが、先行き不透明であるとか、行き先がよく分からない、なんか不安の象徴のような時代かのようにございますが、しかし、それを超えて行く、未来を切り開いていくという、危機をポジティブに受け取るっていう意味で新しい時代だということ。それで新しい時代はどんな特性があるのかというと、先生方皆さんがおっしゃっていますSociety5.0というAI、IoT化といった技術と、それからもうひとつはグローバル化や価値観の多様化というダイバーシティ化、その2点を、今後の激動の時代だというふうにまず認識し、それに則ってどんな人材像を目指すのかといいますと非常に詳しく書いてありますけど、三つの点でまとめていらっしゃると思えました。

1点目は、山口に対する誇りと愛着、高い志ということですが、要は子どもたち・若い世代が今後その不確定で先行きが分からないけれども、自分たちが切り開くのだということも含めて、人生の価値や目的をきっちりつかませたい、つかみ取ってほしいということ。

2点目は、そういった価値に向かってどんなコンピテンシーを持つか、具体的にあるべき論ではなくて、どのような行動特性を持つかということで、素案の中では、行動力と課題発見力と協働力という3つに整理されていると思えました。

やはり、大きなことをただ言うだけではなくて、それを実際に行動に移す力をしっかりと身

につけさせたいという思い。そういった行動が、自分の人生や価値、目的に向けて、どのような機能を果たすのかといいますと、3点目の新たな価値創造、クリエイティビティだと思います。

おそらく今までの高度経済成長期は、あるスキームがあって、どこかから答えを探してくれば、どこかに答えがあったと思いますが、今後はどこかにあることを探すのではなくて、何かと何かを結び付けて創るとか、間隙を縫うとか、そういったクリエイティビティも含めた柔軟性が、知的にも体力的にも、感性や心理的にも必要なのではないかと思います。

新しい時代をAIやIoT+ダイバーシティというか、価値観やグローバル化が進むという2本立てにした割には、国際化と多様性に関する書き込みがちょっと少ないかなという感じは正直言って致しました。章があって書いてはありますが、今般のコロナのことで、留学生もなかなか来られなくなったり、行き来ができなくなったりと短期的には厳しい状況ではございますが、例えば、ズームによる遠隔授業は、私の小さなゼミでも中国の方やシンガポールの方ともやっています。だから逆に言うと、新たな形でのグローバルゼーションとか、関わりの創出というのもできるのかなと思っており、コロナだからステイホームで閉じこもるということではなく、新たな国際化のあり方というのを探る、そういう意味では、小中高であっても、ひょっとしたら、ズームなどを使った海外体験というのが、身近にできるかもしれないなという感じもしました。

人生や価値、目的、コンピテンシーと新しい価値創造という視点に基づいて、「人づくり推進の基本姿勢」について、簡単に4点申し上げます。

1点目の一人ひとりの可能性を引き出すというところは、少子化で子どもが少なくなる中で、やはり一人ひとりの個性を引き出して、一人ひとりの力を100%出すことによって、総合的な人材力を高めようということで、一人ひとりというのは非常に今までのマスプロ教育にはない視点で、非常に重要なことだと思います。

ただ、素案の中に「学びへの意欲を有する子どもたちを」という表現が数か所ありました。今の若い方はステイホームで、自粛で活動しないと、中高年以上に閉じこもりに慣れてしまう傾向もあります。なんとなくずっとゲームをしてという生活に、閉じこもりに慣れてしまっており、私どもは、自粛期間が終わったときにアクティビティを引き出すにはどうしたら良いのかというのを、そろそろ考えつつあります。そういうこと考えますと、やはり不透明な時代だから、この学びへの意欲を持っている子を伸ばすのではなくて、意欲を高めるといって、もうちょっと積極的な働きかけを心がけたいと思います。

私どもが学術交流協定を結んでいますフィンランドに行きましたら、あそこも日本と同じように世界の学力を誇るようなところで、小学校の先生も全部大学院卒、高学歴の先生ですが、どのような教育実習をなさっているのか、何がテーマなのかを聞いたら、小学生の子どもたちをいかにワクワクさせるかということが教育実習のテーマだというふうに説明してくれまして、それは非常に感動を受けました。

そういった意欲を高めると自分で動いていけるということだと思います。私も多くの日本人と同じように、海外に行きますと折り鶴ぐらいはすぐ教えるのですけれども、1回折り鶴を教えたら、日本の子どもたちはそれを作ってきますが、フィンランドの子どもたちはその色を変えて、もっと違う国旗を作るなど、加えた形で成果を見せに来てくれました。そうい

うふうな自分にエンジンをつけるようなワクワクする教育、そういった意味を含めて、一人ひとりの可能性を引き出していきたいと思いました。

2点目の全ての子ども・若者に対する学びと成長のチャンスをとすることは、障害児や病児、それから今度小郡にできます単位制の高校などリトライする子どもたちの教育も含めて、充実することは非常にありがたいと思います。

3点目の学校と関係施設を一体的にというのは、要は教育資源を狭い意味での学校だけではなく、色々な文化財やアクティビティを含めて教育体制を構築していくということは非常に重要だと思います。博物館で、例えば昆虫博などをすると、小学生がいっぱい来ます。学校外でそういった教育資源や文化的資源に触れ合うということがいかに重要なのかというのが分かりました。博物館は、教材開発にも協力的に取り組んでいますし、県庁所在地では珍しい、ムササビが飛ぶのを観察する会などの取組も、非常にきめ細かくやっています。その割にはちょっとかなり老朽化が進んでおります。いろいろ算段していただいて、そういった図書館や博物館、文学館のような、そういった教育資源を充実させ、学校も開かれた教育機能として連携していただけたらと思います。

また、これも高度経済成長期からちょっと尻すぼみですが、運営を工夫して、是非、自然環境を活かした教育を復活していただきたい。それが(6)の新たな人づくりのところでの、本県ならではの教育のあり方にも影響していると思います。都内では2時間かけて海に行かなくてはいけないのに、山口ではこれだけあふれる自然がありますので。自然は総合教育のフィールドですので、是非それを活かしていただきたい。

4点目の学校、行政、地域等との連携については、先程、岡学長もおっしゃいましたが、私がちょっと心配しておりますのは、学校、行政、地域、企業、団体等とありますが、家庭教育という言葉がどこにもありません。ちょっと古いのかもしれませんが、以前は学校教育、家庭教育、社会教育の3本立てで良かったのですが、ちょっと家庭教育が学校教育と社会教育の間で薄まっている感じがします。確かに共働き家族が増えて、それが前提となりますので、やり方は工夫しなくてはいけないと思いますし、子育てに関する不安やニーズもたくさん出ておりますが、やはり子育てをすることによって親育てにもなりますので、やはり家庭教育を支援するようなシステム、ここをやはり考えていかなければいけないと思います。家庭教育がなくて、PTAとか学校教育と社会教育に委ねれば良いということではないのではないかと個人的には感じております。以上です。

【村岡知事】

ありがとうございました。いずれも貴重な視点だと思います。

色々とお話があった中で、確かにコロナの時代で今、学生もあまり出なくなっているので、その生活の事も心配ですし、教育環境も考えていかなければいけません。国際化の話は、おっしゃったとおりだと思います。海外に行きづらいですけれども、ICTを使えば繋がることができますから。これも県内の高校は県で整備しますが、小中の方もしっかり整備もされていくこととなります。学校では1人1台のパソコンもありますが、大型の提示装置とかも導入されていきますので、そういったところで、海外の学校と結んでコミュニケーションがとれる環境が整ってきます。むしろそれを契機に、そうしたこともスタートできればと思

います。ありがとうございました。

続きまして三宅委員。

【三宅委員】

このたびの素案については、幼児教育や特別支援教育の視点、それから私立学校の視点が盛り込まれて非常に幅広く構成されていると思います。

その上で、取り組んでいく内容について、気づきを2点ほど申し述べたいと思います。

1点目は、素案の7ページに①「幼児教育・保育の充実」ということが取り上げられております。その中に、「豊かな心の育成」の推進が明確化されているという点についてです。

この中に、ふるさと山口への愛着を育む取組があります。この点については8ページの(2)「ふるさと山口への誇りと愛着を高める」の「ふるさとを学ぶ」という項目、これを幼児期の早い段階から進めるということで、人格教育の基礎になってくると思います。

ふるさとを学ぶことについては、この会議発足以来、取り上げられてきたことですので、このたび改めてその重要性を認識しています。

その手法については、幼児教育の場合、人物を通して親しみを持たせる、それから、絵本の読み聞かせなどが有効なので、それに活用できる教材の開発が必要だろうと思います。

絵本については、現状、ふるさとの人物が出版物として取り上げられているのは、非常に限られていると思います。もっと幅広い人物を取り上げて分かり易い絵本を作っていくということが求められていると思います。

それから、ふるさと学習における先人の教材についてですが、これは映像が有効なので、魅力的な映像を作って、幼児教育・保育の場とか、あるいは各学校に配布して、活用してもらうということが効果的だろうと思います。例えば、ゆめ花博で作ったような本格的な映像を、それぞれの年齢の発達段階に応じてそれぞれ作っていけば、非常に魅力的なものになると思います。

それから文化歴史あるいは自然を活用した体験学習についてですが、これは博物館などの利用が考えられます。幼児教育・保育や各学校、現場と博物館が連携して体験学習をする、例えば、博物館に行って実物に触れながら活動する、あるいは、出前授業を学校現場に来てもらって受けるなど、いわゆる博学連携ということが有効だろうと思います。

山口の博物館は、全国でも博学連携の分野では非常に進んだ取組をやっており、それをもっと活用していくと良いと思います。

2点目は、ふるさと学習の教材づくりです。

それには、その基になる基礎研究が欠かせないということがあります。これは非常に地味な分野なのですが、研究は日々進歩しています。

非常に専門的な話になって恐縮ですが、例えば吉田松陰の場合、松陰は海外関係、国際的な関係の本を非常に熱心に読んで、広く海外情勢に通じていましたが、実はこの関連の資料は吉田松陰全集には入っていません。そのため、松陰は世界情勢を知らないがために無謀な攘夷を唱えたという本が、実は未だに多数出版されています。これは松陰全集に頼る研究の限界なのですが、そういうことを克服し基礎研究を進めるために、正確な教材を整備していく、そういうことが必要になってくると思います。

それから新しい資料が見つかってきています。最近、従弟の玉木彦助が書いた日記が見つかりました。その日記に、松陰が懇切に書き込み添削をして指導しているということが分かりました。その指導は、彦助の日記の良いところを指摘して褒めてやる、それから適切な質問を書き込んで、彦助の考える力を引き出そうとしている。まさに、長所を伸ばし、考える力を育む教育、これをもう、今から160年前にすでにやっているということは非常に感動的であり、これは現在の教育にも通じるものがあります。そういった発見がされていくわけです。そういった歴史研究が日々進んでいっていますので、教材の基礎研究、これを日々続けていくことが非常に必要になってきます。

そのために、教材研究の基礎的な分野についても研究体制の整備を考えていく、そうすると長期的視野に立った継続的な取組、これを推進することができるようになると思います。以上です。

【村岡知事】

ありがとうございました。

具体的な事例に基づいて、基礎研究の必要性についてよく理解できました。おっしゃる通り教材の開発など、そういったものもとても重要ですし、確かに地元の色々なことを学ぶのに、まだまだ不足している部分がありますので、そういうところが充実できるように、しっかりと取組を進めていくことが重要だということを認識させていただきました。ありがとうございました。

それでは、続きまして、原田委員。

【原田委員】

今回新たに加わった内容の中で幼児教育についてですが、今、私たちが管理しているセミナーパークや青少年自然の家には、家族やグループと一緒に楽しむことができる体験型のプログラムがありますので、それらをうまく活用して、この素案の7ページの「豊かな心の育成」、そのようなものができるように、例えば親子や友達同士での遊びを通して、思いやりや感性、ふるさとへの愛着、探究心、そういった人づくりの基盤となる力を育む、そういった取組ができないかと考えています。

追加された項目以外の内容については、ここまで2回の人づくり会議と、3回のトークセッションでの意見やポイントがよく整理されていると思います。

私達もこうした意見、それから提言をもとに、ひとづくり財団としての新しい事業について、今、色々と検討していますが、その中で、これから力を入れていきたいと思っていることについて少しお話をさせていただきたいと思います。

まず1点目は、「ふるさとを学ぶ取組」、これを充実させたいということです。

素案の8ページのところですが、今年の11月に3回目のトークセッションが開かれ、「歴史に学ぶ山口県の人づくり」というテーマで、郷土の先人の志それから行動力、そういったものをこれからの人づくりに活かしていくという視点で意見が交わされました。

その中で、歴史から学びそれを現在に活かすためには、結果だけを見ていても何も学べない、先人たちが何をしようとし、どう行動したのか、もしそうしなかったらどうなったのか、そ

ういったことを、立ち止まって考えることが大事だという話がありました。

私達も先人学習を色々やってきましたが、どちらかというと、やはり先人の行いや功績といったところに重きを置いた歴史講座という色彩が強いもので、小学生にとってはなかなかその集中力が続かずに、先人の志とか生き方に興味を持つところまで至らない子も少なからずいたと感じています。第1回のこの会議で三宅委員から、あなたならどう考えるかという発問で展開をする、そのことによって、考える力がつき郷土への愛着も深まるというような趣旨の御発言もありました。先人の志や信念といったところに思いを巡らせて、もし自分だったら、今の時代だったらというように、自分事として捉えるところまでも深く掘り下げて考える、そういう学びの場になるように、今、行っている先人学習の内容や手法の見直しができればと思っています。その際には、是非、専門的な立場からの御協力をいただきたいという思いがあります。

素案の18ページの下のところ、本年度設置された「やまぐち教育先導研究室」というのが紹介されています。こうした研究機関でふるさとの先人を教材に山口県の誇りと愛着を高めたり、自分自身の生き方を考えたりする、そうした視点を取り入れた教育プログラムの開発を進めていただきたい。そして私達が行います先人学習が、山口県ならではの特色ある学びになるように力を貸していただければありがたいというふうに思っております。

2点目は、力のある指導者、支援者の確保に努めたいということです。

今申し上げたように、先人の志や考え方について子どもたちに興味を持たせたり、自分の夢や生き方に結びつけて考えさせたりする、そのためにはやはりそういう方向に導く指導者、支援者の存在はとても大きいのだらうと思います。

素案の17ページから18ページにかけて、「教職員の資質能力の向上」というのがあり、そこにも、良い指導者によって良い人材が育つ、主体的・対話的で深い学びの実現に必要な力・態度を育てるファシリテーターの担う役割が重要、という内容が示されています。

先人学習に限らず、先ほどの幼児教育でも、この素案の中にありますものづくりなどのクリエイティブな体験、それから課題解決型学習、そういったものも同じように子どもたちの好奇心を刺激して、興味・関心を高めて、そして主体的な学びへと導くことができる、そういう人や、若者が試行錯誤をして答えを探したり、目標に向かってトライ&エラーを繰り返したりするような体験をサポートできる人、そういう力のある指導者、支援者の協力があって、初めて人づくりの取組も大きな成果が期待できるのだらうと思っています。

今、県内には、教育応援団や、ものづくりマイスター、先ほど出ました博物館サポーター、そういった子どもたちに体験学習の場を提供するグループや企業、団体というのがたくさんありますので、そういうところと連携を強めることによって、力のある指導者、支援者のネットワークを広げていきたいと思っています。

また、自分自身の生涯学習の機会として、子どもたちの学びをお手伝いしたいという大人もいらっしやいます。そうした人たちを対象に、もう一段力のある講師、指導者に成長してもらうためのステップアップセミナーのようなものもしていければと考えております。

いずれにしても、今回の取組は、その推進の基本姿勢になるように、学校、行政、地域、企業、団体などが連携してチャレンジを応援していこうというものですので、広くその連携協力を働きかけて、たくさんの力のある人、思いのある人に子どもたち・若者の人づくりにか

かわってもらおうということがとても大事ですので、推進方針の策定は、その良いチャンスだと思います。

最後になりますが、そうした力のある指導者、支援者に広く学校教育や社会教育の場で活躍してもらうための派遣事業の仕組みが重要で、そういったものを充実させていきたいと考えております。ひとづくり財団も、力のある人たちの協力を得て、子どもや若者に向けた新しい事業を行っていきますけれども、私たちが直接できるのは、セミナーパークを中心に、せいぜい年間数回の単発的なものに限られます。参加できる子どもの数や地域も限定的です。この推進方針に基づく取組は、そうした地域的な偏りがなく、県内全ての子どもや若者を対象に、長期的、継続的に実施される必要がありますので、やはり日頃から色々な学習や体験活動が行われている学校、放課後児童クラブ、そういったところに力のある指導者を派遣する、出前授業のような取組が大事になると思っています。それも、今、私たちが行っている講師の名簿を作って配布するというだけではなく、2回目のトークセッションを行った際に、キャリア教育のプログラムを紹介する冊子が配られました。その中では、企業・団体が実際にどのような体験や支援を提供できるかということが、学校などの利用する側に分かりやすく、写真や図を入れて説明をされています。

こうしたもののように、先生や保護者の皆さんが子どもたちに聞かせたいとか、体験させてみたいと感じられて、学校などで主体的に活用してもらえるような、指導者を派遣する仕組みができたらと思っています。以上です。

【村岡知事】

様々な貴重な御意見をいただきました。特に先人学習の面において自分事として捉える導き方や、主体的な学びを導いていくということの重要性、おっしゃるとおりだと思いますし、そうしたことを導ける指導者の育成や関係機関との連携というのは、とても重要な視点だと思います。

この素案の中でもそういった思いで書いているところもありますが、実際に実行にしっかりと移していければと思います。ありがとうございました。

それでは最後に、浅原教育長。

【浅原委員】

示された推進方針の素案については、幼児教育・保育、それから特別支援教育、さらには私立学校との連携等、大変幅広いテーマが、あるいは幅広い内容が含まれており、関係機関が連携して本県の人づくりを進めていく上で有益なものと考えております。

県の教育委員会としましても、今後方針が策定されましたら、その方針を踏まえて新たな時代の人づくりに向けた様々な施策に取り組んでいきたいと考えております。

具体的な内容について2点ほどお話をさせていただきたいと思います。

最初は特別支援教育の関係です。

素案の13ページに障害のある幼児児童生徒について示されておりますが、御案内のように県全体の児童生徒数がどんどん減少していく中で、特別支援学校の児童生徒数の割合というのは増加する傾向にあります。

例えば、教室不足の解消、もちろんそれも大切ですが、それだけではなく、一人ひとりの教育的ニーズに応じた指導・支援、これを十分に展開できる高機能かつ多機能な施設整備、こういったものも必要になってくると思っております。

また、障害のある児童生徒が生涯にわたって積極的に社会参画し、そして活躍できる社会を形成をするためには、より多くの人とのコミュニケーション、これはやはり大切でありますので、その機会を設けることで、児童生徒の自己肯定感を高めるとともに、地域の理解促進、これもぜひ進めていきたいと考えております。このために、地域交流スペースを活用した交流活動、あるいは障害者スポーツの実施のための環境づくり、あるいはすでに一部の特別支援学校で行っております就業実践科の設置、そういった取組を定着させて、全県的に広げていきたいと考えております。

さらに、高等学校においても通級による指導が可能となるよう体制整備を進めておりますが、高等学校での障害のある生徒への指導や支援の充実を図るために、特別支援学校のセンター的機能、これを一層充実させていく、強化していく、こうした取組も進めていきたいと考えているところでございます。

2点目は幼児教育関係です。

資料の17ページに幼児教育関係が記載されております。17ページは幼稚園教諭・保育士等の資質能力の向上、確保・育成という形で触れられていますが、幼児期の教育というのは、生涯にわたる人格形成の基礎を培う大変重要なものであるということで、全ての子どもたちに質の高い教育の機会が保障されることが求められております。

幼児教育の質の向上を図るためには、幼稚園、保育所、認定こども園等の、そこで働く先生方、教職員の資質能力の向上が大変大切であると考えており、私ども県教委としては、各種研修会の開催はもちろん、幼稚園教諭の免許状の認定講習の実施等、教員の資質向上に向けた取組を推進しているところでございます。

今後とも、知事部局や各市町教委、さらには関係団体等と連携しながら、こういった取組を積極的に進めていきたいと考えております。以上でございます。

【村岡知事】

ありがとうございました。特別支援教育のニーズも増えております。また幼児教育における教職員の資質の向上というのは、とても重要なところでありますので、今回、新たに盛り込ませていただきました。是非、教育委員会の方でもこの取組を実施していただきますよう、引き続き、よろしくお願ひしたいと思います。ありがとうございました。

皆様方から御意見を伺い、一巡したところですが、まだ、言い残されたこと、あるいは、他の委員の発言を聞かれて気づかれたことなどがありましたら、御意見をいただければと思いますが、いかがでしょうか。

【岡委員】

3-2の資料の12ページに「データサイエンティストやデジタル人材の育成」という項目があり、私どもの大学の名前が書いてありますが、実際に即戦力となる人材の育成というこ

ともなりますので、社会人教育とか、そのあたりを追加された方が良いと思います。小中高や幼児教育も必要ですが、今の社会人を即戦力として養成していくということも、人づくりでは重要ではないかと思しますので、そこを加えられたら良いのではないかと思います。以上です。

【村岡知事】

わかりました、今の御指摘を踏まえて記述について検討していきたいと思います。ありがとうございます。

他に御意見等がありますでしょうか。よろしいでしょうか。

そうしましたらそろそろ時間となりましたので、議論につきましては、このあたりで閉じさせていただきます。

最後に私から御挨拶申し上げたいと思います。

本日は大変お忙しい中、本会議にお集まりいただき、貴重な御意見をいただきまして誠にありがとうございました。

新たな時代の人づくりの推進方針の策定と今後の取組に向けまして、本日は、様々なお立場から率直な御意見をいただいたところでございます。

本日いただきました御意見を踏まえ、推進方針の策定を進めてまいります。

そして、実効性ある人づくり施策を構築しまして、学校や企業、団体等の皆様としっかりと連携しながら、効果的にまた計画的にこの取組をしっかりと実施していきたいと思っております。そのことに向けてさらに検討してまいりたいと思っております。

皆様には人づくりの推進方針の策定、また今後の取組につきまして、引き続き、御協力を賜りますよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。

本日は誠にありがとうございました。

【平屋部長】

以上をもちまして、第3回山口県新たな時代の人づくり会議を終了させていただきます。本日は誠にありがとうございました。

以 上

※ 上記については、委員の了解を取っておらず事務局がまとめたものです。